ぎんまい長岡京

長岡京吟詠会　会報
第72号　令和7年2月1日
発行　長岡京吟詠会
会長　本庄賀秀峰

愛連フェスティバルに行ってみよう！！

3 月 2 日(日)に尼崎市総合文化センターで「愛連吟詠フェスティバル」があります。優秀者吟詠や構成番組等があり、見応え聴きごたえのある内容です。チケット(4,000 円)がお入り用の方は事務局までお申し出ください。　(事務局)

歴史探訪を終えて！！ 前回の続き

R6 年度のメインは、幕末の漢詩人「藤井竹外」に出会う旅で、生地高槻を訪ねました。賀堂流定本絶句編には、皆から親しまれている 4 吟が掲載されています。高槻の藩士の家柄に生まれ鉄砲に通じながらも、早くから頼山陽に漢詩を学び「絶句竹外」の名を不動にしたという竹外は、山陽亡き後は梁川星巌に師事し、広瀬淡窓とも親交を結び、晩年は官を辞して京都に住み、山陽邸と星巌邸の中間に居を構え、悠々自適に暮らしたという。

また、高槻の人々の暮らしを、江戸時代から明治の鉄道の開通まで、深く支えてきた水運「淀川三十石舟」は、船頭衆が歌い継いできた船歌を保存会が引き次ぎ、全国大会の開催が 32 回を重ねているというので、研修に参加した会員に教えてもらい、「花朝澱江を下る」「舟中子規を聞く」などと合わせて、淀川の舟下りの感懐を疑似体験するスパイスになりました。

【参考】「三十石船」は、4 人の船頭衆で最大 28 人乗り。米なら三十石(一石は約 150 kg)が載せられた。全長約 17m、幅約 2,5m。伏見から天満橋の間約 40 kmの距離を、下りは半日、上りは一日かけて旅客運送していたという。「三十石船舟唄」は、請け負っていた小豆島からの船頭衆が、船客を楽しませたり、通りかかる地名や風景を盛り込んで客に知らせるために、持ち込んだという。　(担当)

R7 当面の予定

2/22(土)	府連・府総連役員総会	(京都アスニー)
2/23(日)	長岡京吟詠会会員総会	(13:00　公民館講座室)
3/2　(日)	愛連フェスティバル	(尼崎市総合文化センター)
3/20(木)	流碑祭&総本部役員総会	(姫路護国神社)
3/22(土)	府総連審査員研修	(18:00　京都アスニー)
3/30(日)	京都本部前期資格認定会	(13:00　公民館講座室)
4/13(日)	全国吟詠コンクール京都府大会	(ラボール京都)

シルバー川柳のご紹介

- 注目を　一身に受け　餅食べる
- おしゃべりは　お薬よりも　効果あり
- 「老けたなあ！」　親子で言うて　見つめ合う
- 長生きの　秘訣聞いては　真似をする
- 気遣って　犬振り返る　散歩道

ほっと一息、休憩タイム
～ほっとした話～

先日長野県のスキー場で友達が転倒して膝を負傷し自力では歩けなくなり、本人の要望で私の車で京都に帰ることになった。一番の心配ごとは、途中の食事とトイレだった。ところが、道中の道の駅と高速道路のサービスエリアには貸し出し用の車椅子があり、それ用のトイレも整備されていて、覚悟をしていたほどの苦労もなく自宅に送り届けることが出来た。奥様に引き渡したときはもう暗くなっていたが、そのまま病院に直行された。無事届けることが出来てホットして京都府南部より細心の注意で自宅に向かった。(長　建)

「季節の二季化」が進む!?　後藤〇〇

暑すぎる夏が長く続き、温暖化した冬が数か月続く「二季化」現象が、声高に取り沙汰されて来ています。紅葉を楽しむ秋や、麗しい春を愛で楽しむ間もなく、急ぎ足で変わります。まるで飛び越えるようにして。「平均気温の上昇で、気候変動が引き起こされ、予期せぬ異常気象が増大する」とか「温暖化は“人災”だ」と言われながら、季節の異変はすさまじい猛威で襲いかかってきます。また、異常気象による弊害は、これまでの経験則では推し量ることができず、農業生産・流通などすべてに深刻な事態をもたらし、翻弄され、果ては日本人の美意識をも損ねるのでは、と杞憂されています。『歳時記は日本語の先生だ』と言われます。四季の移ろいを楽しみ味わうことで、人の心に豊かでたおやかな情緒や感性が培われることを思いながら、漢詩を学ぶ者として、漢詩の底流にある詩情を受け止めつつ、心豊かに過ごしたいと願う今日この頃です。

「歴史探訪に参加して」

市丸知佐子

歴史資料館の竹外コーナー

久しぶりの参加でした。参加したいと思ったきっかけは、随分と昔、詩吟をやり始めて 2～3 年経った頃の昇格試験の吟題が「芳野懐古」でした。花の吉野で老僧が物語る南朝の史話に感激して藤井竹外が作った七言絶句です。右も左もわからずに丸覚えで、詩吟には程遠かったなと思いますが、皆さんの前で試験を受け、藤井竹外を知りました。

藤井竹外が私の住む近くの高槻摂津、高槻藩の武士の出身ということや、江戸末期に活躍したということを知り、竹外さんを身近に感じてもっと知りたいと思い訪ねました。

竹外の住居跡やお墓を訪ね、歴史資料館では竹外直筆のお軸を見せて頂き足跡を訪ねることができました。 お昼には、美味しいお食事が用意されていて満足し、最後は三川合流が望めるさくらであい館にも上れて良かった。竹外さんの吟もたくさん合吟できて楽しかったです。幹事さんありがとうございました。

長尾賀秀剣

普段吟じていた漢詩の作者が生まれ育った地を訪ねて作者の事をより深く知ると、もっとしっかりと漢詩を味わい吟じなければならないなと思いました。竹外が自然を愛し、風物、人情に関するものを多く詠んでいることも分かる様な気もしました。また、酒をこよなく愛したことは大変親しみを感じます。

ほん隣の高槻が、陸路は西国街道、水路は淀川が有りこの様に多方面で栄えていたとは驚きで認識不足でした。また、ゆっくり訪ねたいなと思っております。資料館では展示を見て係員の説明を聞きつつ、三十石舟で揺られながら枚方あたりで「食らわんか」と声をかけられいそいそと酒を注文している気分になっていました。当日は一段と寒い日でしたが、会食が温かい鍋料理でピッタリでした。お酒も頂き親睦が深まり良かったです。丁寧な下見と緻密な計画そして至れり尽くせりのお世話をありがとうございました。

中塚喜代子

朝から良い天気で、バスの中より紅葉狩りをしているような気持で、楽しみながらのバス旅行でした。席もゆったりと座らせてもらい、おしゃべりも楽しみの一つ。高槻に着き、下車したら藤井竹外邸より車いすを用意して頂き、押し乍ら随分楽に本行寺境内に歩いて行きました。境内には、あちこちに思わず触れてみたくなる自然石の石碑があり、感動しました。藤井竹外先生のお墓ももちろん自然石でした。お参りさせて頂いた後、合吟もさせて頂き良かったです。

美味しく楽しい昼食を済ませた後も、気持ちも晴ればれするような三川合流域に立ち寄り、木津川・淀川・桂川を眺め、子供時代にこの三川の上流で泳いだことを思い出し、幼い頃と繋がっている人生を思いました。車いすまで用意して頂き、懐かしい思い出と一緒に、ありがとうございました。

ぎんまいの発行についてのご案内

ぎんまい長岡京は1月、4月、7月、10月、年間4回の発行になります。

引続き、発行の際にはお目通しください。

ぎんまい長岡京』　編集室
編集委員長　後藤賀秀香
編 集 委 員　宮小路、櫻澤、本庄（庄）
※連絡・問合せ先　後藤賀秀香　Tel: 075-331-0241